

[本館資料3-5]

六月と七月 八月と八月

写真展



©Hirotaki Kanoda

11人の写真家がいま、伝えたいこと
片野田斉 趙根在 石川武志
高松英昭 松澤コウノスケ 橋本弘道 鈴山亮
宇井眞紀子 落合由利子 大西暢夫 太田順一

会場 東京都人権プラザ企画展示室
会期 2017年3月15日(水)～8月19日(土)
料金 無料／日曜休館（展示替え期間開室）／開館時間9時30分～17時30分
主催 ●東京都人権プラザ [指定管理者・公益財団法人東京都人権啓発センター]

東京都人権プラザ 平成29(2017)年2月16日 港区・芝に移転オープン

東京都人権プラザは、東京都が設置した人権啓発のための施設です。主な施設として、①展示室、②図書資料室、③セミナールーム、④相談室があります。東京都人権プラザは、公益財団法人東京都人権啓発センターが指定管理者として管理運営しています。



■所在地 〒105-0014 東京都港区芝2-5-6
芝256スクエアビル1・2階
■開館時間 9時30分～17時30分
■休館日 年曜日、年末年始
URL <http://www.tokyo-hrp.jp>
Tel 03-6722-0123
Fax 03-6722-0084



東京都人権プラザ企画展
写真展「人権という希望」
11人の写真家がいま、伝えたいこと
片野田斉 趙根在 石川武志
高松英昭 松澤コウノスケ 橋本弘道 鈴山亮
宇井眞紀子 落合由利子 大西暢夫 太田順一

会場 東京都人権プラザ企画展示室
会期 平成29(2017)年3月15日(水)～8月19日(土)
第1期 3月15日(水)～5月13日(土)
第2期 5月20日(日)～7月1日(土)
第3期 7月8日(土)～8月19日(土)
料金 無料
お問い合わせ → 東京都人権プラザ Tel: 03-6722-0123 Fax: 03-6722-0084

写真展 「人権という希望」

11人の写真家がいま、伝えたいこと

「人権」それは戦争をはじめとした苦しい経験とそれに対する反省をもとに、人類が獲得してきた財産です。私たちは誰もが生まれながらにして自由であり、自分らしく生きる権利を平等に持っているのです。



©Hidetaka Takemoto

災害によって暮らしが奪かされ、多くの生命が奪われています。私たちとは文化や考え方も異なる多様な人々と共に生きています。ですから、互いを認めあい、人権を尊重しなければなりません。そのためには、他者に対する理解と関心、そして想像力を育むことが不可欠です。そのとき、写真は確かな力を持つと考えます。

写真家は社会が目を背ける現実のなかで生きる「人」に対峙し、レンズを向けています。そうした一枚の写真が、見る者の心にとまり、共感や想像力を働かせる原動力となることがあります。

この度、東京都人権プラザ企画展として、3人の写真家、宇井眞紀子、高松英昭、片野田斉の監修のもと、3期に分けて8人の写真家による写真展を開催いたします。

本展を通じて、一人でも多くの方に、人権という人類の希望の実現へつながる扉を開く、一枚の写真に出会っていただこうことを願っています。

©Makoto Uji

会場 東京都人権プラザ企画展示室
会期 平成29(2017)年3月15日(水)～8月19日(土)
第1期 3月15日(水)～5月13日(土)
第2期 5月20日(日)～7月1日(土)
第3期 7月8日(土)～8月19日(土)
料金 無料
お問い合わせ → 東京都人権プラザ Tel: 03-6722-0123 Fax: 03-6722-0084

世界人権宣言【第1条】

すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である。人間は、理性と良心を授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない。

第1期 | 3月15日(水) - 5月13日(土)

すべての人は、
この世に一人しかいない。

生きる。

<第1期テーマ>

多くの人が抱きがちな「アイスって○○」「精神障がい者って○○」の
ようなステレオタイプではない、それぞれの写真家が繋を創いて真摯に
一人一人と向き合つた写真から、遠い存在だと思つていた様々な立場の
人たちをより身近に感じていただけます。(宇井真紀子)

落合由利子
働くこと育てること

人は働き、そして育てることを通して、たくましく現実に
向き合う。乳幼児を抱えながら仕事をする男性・女性たち
「それぞれの」「生きる力」で、自身も乳児二人を育てながら、
等身大で向き合つたドキュメンタリー。

おちあいりー ■ 誕生日：1963年、埼玉県生まれ。1989年から1992年まで、
ベルリンの国際映画祭の映画の人々トークショウ「おじさんと女」(音楽出版社)にて講師として講演を行なう。
『おじさんと女』は、映画監督の父と女優の母の恋愛小説。著書には「働くこと育むこと」
『音楽出版社』(音楽出版社)などがある。

松澤コウノスケ
私の宝ものー知的障害施設に暮らす人々

知的障害者に対する無理解は偏見と差別を生む。読み書きや
人間関係の構築がほとんど出来ないなど、不得意でも、「人」としての感情に障害
があるわけではない」と言う松澤は、悩み、苦しみ、怒り、笑い、
そんな当たり前の彼らの日常を寫します。



大西暢夫
ひとりひとりの人の記録

障害者のなかでも特に、精神障害者に対しては「こわい」
「おかしくない」というイメージをもつ人はまだ多い。彼ら
は日々どんな生活者であるのか。大西は
精神障害をもつ人々の豊かな表情を写し出す。

おおにしひろし ■ 誕生日：1968年岐阜県生まれ。ダムに沈没した人、動物、精神疾患、
障がい者など取材。2010年から東京の梅田筋商店街に店を
開き、地元の人に商品を販売する。著書には「沈没した人」(文藝春秋)、「3.11の記憶」(文藝春秋)など。



太田順一
父の日記

自身の父親が遺した日記。認知症により施設に入つてから、
毎日かかさず書かれたその日記は端乱していく。人は
誰もが老い、死んでいく。その手みの距離を確かめるよ
うに、一頁一頁と日記を見られていく。

おおたじゅい ■ 誕生日：1950年奈良県生まれ。写真集に「父たちの精神写真」「父たちのチナーシュ」「父たちの花」など。著書には「父たちの日本」(文藝春秋)、「父たちの花」(文藝春秋)など。



宇井真紀子
スライド上映 &トークセッション

4月15日(土)午後2時~4時

回定員 70名 / 無料 / 当日先着順 / 情報保護及び託児につきましてはお問い合わせ下さい。

片野田 齊
7月29日(土)午後2時~4時 出演：片野田齊・石川武志

第3期 | 7月8日(土) - 8月19日(土)

<第3期テーマ>

かき消れる小さな声。

人々の日常のなかに入り込んで撮影する写真家にとって、どのような立場
に身を置くかがとても重要になります。現実は複雑です。「強者と弱者」「善
と悪」というような二元論だけではありません。あらゆる場所、例えば戦
火の国で、路上の片隅で、障がい者施設で、時間を見かけて注意深く自分の
立場を見つけています。そこやつて、差別や偏見が写真に入り込むことを
拒絶するのです。(高松英昭)

趙根在
ハンセン病を振り継ぐ

炭坑まだった趙がハンセン病療養所で出会った同胞から受
け取った無限の「やさしさ」はいつまでもここから来るのだろうか。
趙が写したハンセン病の奥深い世界を通じて、一世紀に及ぶ
ハンセン病をめぐる人権侵害の歴史を辿ります。

チョウゲンジエ ■ 誕生日：1933年-1997年、愛媛県生まれ。10代でハンセン病を発病。1960年には、母の命を救うことを知り、静岡県の結核療養園で患者たちと向き合つて、人生を始めることを決意。『趙根在写真集』(ハーセン病研究会)を出版する。『趙根在写真集』(ハーセン病研究会)

石川武志
MINAMATA NOTE

ユージン・ミスのアシスタントとして1971年から3年間「水
俣病」に向き合つた石川。40年後、再び水俣へ向かつた。
公式講習から60年余り、母郷の船内で被災者にあった胎児性
患者たちの現在は石川の眼にどう映つたのか。

いしかわたけし ■ 誕生日：1971~1974年、ユージン・ミスの
水俣病対応アシスタント。1975年、ユージン・ミスの「ラン
ス・ジョンソン」(社会問題)の取材開始。写真集に『INDO 第三の世
MINAMATA NOTE』(1971~2012)。

片野田 齊
7月1日(土)午後2時~4時 出演：高松英昭・松澤コウノスケ・橋本弘道・亀山亮(予定)

<第3期テーマ監修> カカシヒラセイ ■ 誕生日：1970年生まれ。新潟県柏崎市山生里出身。明治学院大学卒業。
風景の取材をするため、1990年からヨーロッパ、アメリカ、南米を旅し、各地でアート制作を行つて、各地の美術館で個展を開催。2010年、東京のアートマガジン「ART JAPAN」にて「新潟の美術館」で「新潟の美術館」を開始。著書に「カカシヒラセイ」他。